

かわさきコロナ情報(動画特設ページ)

#37 令和2年12月24日 ~市立多摩病院の現状について~

こんにちは、川崎市長の福田紀彦です。

12月24日、今日はクリスマスイブで、本来であれば楽しい話題をお伝えしたいところですが、川崎市内の感染状況、非常に高止まりの状況が続いています。

久しぶりのこの「かわさきコロナ情報」でありますけれども、この2か月の間にも非常に感染拡大が続いて、今高止まっている。病院の状況も、入院患者さんの数も非常に高止まってなかなか下がらないという状況が続いています。

そこで、これまでこの「川崎コロナ情報」で川崎市立の3病院のことについてお伝えしてきて、今まで、南部の川崎病院、中部の井田病院をお伝えしてきました。今日は、北部の地域医療支援病院であります、市立多摩病院の現状をお伝えしたいと思います。

この多摩病院ですが、川崎市立病院なのですが、非常に珍しいケースとして、指定管理者制度というものを採用してきて、実際の運営は聖マリアンナ医科大学病院にお願いしているという非常に特殊な病院になっています。

この感染の拡大で非常に医療現場は大変なことになっています。そこで必死に頑張る今の多摩病院の現状について、皆さんに御覧いただきたいと思います。

それでは御覧ください。

動画

=====

(川崎市立多摩病院 病院長 長島悟郎)

川崎市立多摩病院は、平成18年に川崎市の3つ目の市立病院として設立された、全国で初めて私立医科大学が指定管理者という形で管理をさせていただいて、大学というメリットを市立病院の中に取り入れて運営をし始めたというのが、川崎市立多摩病院の特徴だと思っています。

<クラスターの発生、収束>

(川崎市立多摩病院 病院長 長島悟郎)

皆さんに多大な御心配御迷惑をおかけしたことを、改めてお詫びしたいと思います。

おそらくなのですが、インデックス・ケースという事の発端は、2名の医療者だと考えています。発熱をして、熱が下がったということで2~3日仕事を休んで解熱後24時間たってから復職した職員が2名いました。

その職員がその後普通に就労していて、4日目ぐらいでまた熱が出たということで、コロナウイルスの検査をしたところ、陽性になったと。その医療者が勤務している病棟にいる、患者さん全てのコロナウイルスの検査をその日の夜に行うと、7名の患者さんが陽性であることが分かったということで、病院全体をクローズにして、外来診療だけは継続、救急診療・入院診療は全て中止という形にして、完全に病院を管理下に置いたというのが10月30日です。

最終的に2週間強の時点で収束したと判断をして通常診療に戻ったと。最終的に確認された、医療者からの感染者は18名、そして患者さん及び患者さんの御家族が21名となっています。

(川崎市立多摩病院 看護師)

院内でクラスターが起きたときは、急な対応でいろいろと私たちも気が付かないところも多くあり、看護師たちのストレスとか身体的なものは、本当に計り知れなかったなと思っています。

怖い思いをすごくして、自分も感染しているかもしれないとか、PPEをちゃんと着脱したとしてもやっぱり抜けがあるんじゃないかとか、どこかドアノブにあるんじゃないかとか、一つ一ついつも慎重なのにより慎重になるぐらい、やっぱり怖かった。どんなに予防線を張っていても潜伏期間がある以上、入院時が大丈夫でもその後一般病棟から出ることも拡大することも、どの病院もあり得るのではないかという中で、より身を引き締めていかなきゃいけないなと思った今回のクラスターです。

<多摩病院のいま>

(川崎市立多摩病院 酒井医師)

今現状として当院では、一番の問題が看護師の数が足りていなくて、医師の数もギリギリではあるんですけど、患者さんを制限なく大人数見ることができない状況、ケアの面も含めて、その中でどうしても受け入れられない患者さんも出てきているような、かなり患者さんの数は増えてきている状況です。

(川崎市立多摩病院 看護師)

救急外来の敷地の中に外来ブースを立ち上げて2月からやっていますけど、そこで発熱・上気道症状を有する患者の外来をやっています。そこで抗原検査とかPCRの検査、CT等々をやり、入院が必要な患者さんには入院してもらおうという形でやっています。

今患者さんの陽性率もかなり上がってきていて、1日に多い時で3人くらい、外来をやっていると陽性になる状況も見られています。

(入院するコロナの患者には)現在徐々に介護度が上がってきている方々が多く、認知症の人たちも多いです。クラスターが起こるのが介護施設だったりデイケアだったりになるので、どうしても高齢の方が多くなっていて、自分ではなかなか身の回りのことができない方々が多くなっているの、中に入る時間も以前よりはかなり多くなっています。

感染者の方が増えて、それと同時に入院患者さんも増えてきて入院対応に忙しく、それも苦しくなるようなN95というマスクを着けた上で、防護服を着た上という、身軽な状態ではない状態で入院対応を1時間2時間するということが、かなりきついかと思っております。

今防護服脱いで出てきたところですか？

ーはい、そうです。

中での防具服着ての勤務っていうのは？

ー結構つらいですね。苦しいなあっていうときもあります。何時間も結構入っていることが多いので、そのときは結構苦しいです。サウナにいる感じ。汗びっしょりです。

<医療従事者の現状>

(川崎市立多摩病院 看護師)

救急の看護師たちは大変使命感を強く持っているので、私がとやかく言わなくても、やらなきゃいけないっていうことは強く理解してくれている人が圧倒的に多いと思います。

東日本大震災の時にちょうど看護師を休職していた時期だったんですね、半年ぐらい。まさにみんなが後方支援とかDMATで行かれているようなときに看護師を休職していたので、ああこんな時に看護師の職を生かせないのは申し訳ないなという思いが自分の中でありました。今回このコロナがあったときに、自分が休職していたときを思い出して、そうだったら(休職中だったら)自分もやっぱり看護師として働けるのになと思ったのかなと思うときがあって、そんな中で今働けていることは、自分の中ではあの時何もできなかった思いがあるので、今できてるというのは、モチベーションには一つなっているかなと個人的には思っています。

正直今は本当に不安しなくて、よかったと思えたことがあまりないかなというのが本当。この先明るいことというのは、私たち医療者では今全く考えられてないというのが、みんなそう思っているかなと思っています。

(川崎市立多摩病院 酒井医師)

結構長丁場になってきて終わりが見えないという、終わりが見えればそこまで頑張れるという現状もあるんですけども、そこがいつ終わるのか分からない中、日常の通常業務も並行してやりながらコロナの患者さんの対応をするのが結構しんどいというのは、僕だけでなく、医師だけでなく、看護師も含めて感じているところではあります。

<感染拡大を防ぐために>

(川崎市立多摩病院 看護師)

気が緩んでいる人は、重症化しないのかもしれませんが、する可能性があるということを考えて、できる範囲での感染対策をした上での行動を、しっかりしてもらえたらなという思いがあります。

街に人が結構いるなあという感覚のときはあります、週末とか土日とか。それを見て、もしそれで感染して軽症で済めばいいけれど、重症化したら入院になっちゃうからまた入院患者さんも増えてしまうんじゃないかという気持ちにはやっぱりなりますね。

(川崎市立多摩病院 酒井医師)

通勤に関してはやっぱり人はかなり増えていますし、街でも今人は増えている。しっかりと気にしてもらって、今一度生活を見直したりとか、我慢しなきゃいけないところはしっかり我慢するということは心がけてほしいなと思います。

患者さんの中には、2時間も待たせたにもかかわらず、こちらが謝罪したことに対して、むしろ先生がこんなにリスクを負って危険を冒して診てくれているということに対して感謝をしてくれる。やっいて報われたという気持ちには少しなりましたね。

(川崎市立多摩病院 病院長 長島悟郎)

是非市民の皆さんへのお願いですが、感染は必ずいつか収束します。それまで皆さんを守っている医療が崩壊しないように私たちはしていかなきゃいけないと思っています。いろいろな御不自由があるかもしれないですし、いろんな事業をしっかりと守っていかなきゃいけないという、経済的な側面もあるとは思いますが、皆さんの命を守るのが医療であり、医療が崩壊したら本当に社会資源が回らなくなってしまうので、是非その辺はしっかりと御理解いただいて、私たち川崎市立多摩病院はしっかり皆さんを守るために、これからもコロナに対峙していきたいと思っていますので、皆さんも御協力をよろしくお願ひしたいと思っています。

=====

御覧いただきありがとうございました。

御覧になっていただいてお分かりのとおり、本当に大変な中、医療従事者の皆さん必死になって日々奮闘していただいております。この医療従事者の方をはじめ、介護福祉の現場にいらっしゃる皆さん、あるいはエッセンシャルワーカーと言われている仕事をされている皆さん、そうした全ての皆さんに心から感謝を申し上げたいと思います。本当にありがとうございます。

この現状は、多摩病院だけではありません。市内の病院、市立病院もそうですけれども、市内のコロナを受け入れている病院はたくさんあって、そして同じような切迫感をみなさん不安の中で闘っています。

この時期、冬場は、心疾患でありますとか脳疾患ですとか、こういった命に関わるような重篤な病気で病院に搬送しなければならないというケースが増えていきます。そうすることによって、コロナと救急を並立させていけなくちゃいけないということですから、現場は非常に大変なことになっています。

是非こうした現状に皆さんの御理解をいただいて、まずは自らがかからない努力、そしてうつさない取組、こういったことをしっかりやっていただいて、そして年末年始をしっかりと乗り切りたいと思っています。

是非皆さんの御協力を引き続きよろしくお願ひいたします。